

平成19年3月23日

平成 18 年度 継続評価書

研究機関 : 日本電信電話(株)、NTTコミュニケーションズ(株)、慶應義塾大学、東京工科大学、三菱電機(株)

研究開発課題 : 次世代型映像コンテンツの制作・流通支援技術の研究開発

研究開発期間 : 平成 17 ~ 19 年度

代表研究責任者 : 藤井 哲郎

総合評価 : 適

(適 / 条件付き適 / 不適の3段階評価)

(総論)

引き続き、研究開発を推進することが適当。

(コメント)

- 計画の妥当性、着実な成果の達成、適切な予算の執行さらには効果的な成果アピールをともなう実証実験など、引き続き研究開発を実施しても着実な研究開発の成果が期待できる。
- 4K超高精映像は、多方面への波及が期待できることから、幅広い視点で研究開発を進めていただきたい。なお、プロジェクト最終年度の総合的実証実験では、波及の観点で効果的な成果アピールを期待したい。
- 成果については、権利化が着実に図られているが、標準化への寄与についても努力していただきたい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

(総論)

平成18年度の研究開発目標はほぼ順調に計画が進み、優れた成果を上げていると判断できる。

(コメント)

- 平成18年度の研究開発目標はほぼ順調に達成されていると判断できる。特に、ネットワークを利用した4Kコンテンツ制作技術、配信、セキュリティ技術については、実験を通してその有効性を確認するなど予定通りの成果を達成している。
- 一方、評価コンテンツ制作は、制作や表示用装置の制約上からその推進は厳しい状況ではあろうが、本プロジェクトにおいて重要なテーマでもあり速やかな進展を期待したい。
- なお、研究成果の権利確保に関しては、予定の特許数を超えた出願を行っており、着実な成果の権利化が行われている。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価B

(総論)

研究予算については、おおむね計画通りに執行されている。

(コメント)

- 研究予算については、おおむね計画通りに執行されていると認められる。特段の問題もない。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価B

(総論)

優れた技術開発を行うことが期待できる実施計画であると認められる。

(コメント)

- 4K超高精細映像はデジタルシネマ以外にも産業や教育など多くの分野への波及が期待できることから、フレーム数については24Pに留まらず多様な4K超高精細映像を取り扱った検証を進めることを期待したい。
- 圧縮符号については、当面JPEG2000を用いて配信等の検討を行っているが、更に進んだ符号化についても可能性を検討することも重要である。
- 4Kをベースにした次世代型映像コンテンツ制作・流通支援技術に関しては、事業化も重要な検討項目でもあり、引き続きビジネスモデルの検討、提案を期待したい。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価B

(総論)

特段の問題は認められない。

(コメント)

- 特段の問題は認められない。特に最終年度では効果的な予算執行を期待したい。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価A

(総論)

実施体制は適切と判断でき、計画通りの進捗が期待できる。

(コメント)

- クリエータ参加による4Kコンテンツ制作、4K映像の品質評価管理からネットワーク利用編集そして流通まで必要な専門家がそろった研究開発体制で進めており、実施体制は適切と判断できる。